

文化財を火災から守ろう

1月26日は文化財防火デー

1月26日は「文化財防火デー」です。毎年この日を中心に文化財を火災などの災害から守るため、全国各地で防火訓練が実施されます。

昭和24年(一九四九)1月26日、現存する世界最古の木造建築物である法隆寺金堂が炎上し、白鳳時代(7世紀半ば〜8世紀初め)の壁画が焼損しました。

この壁画の焼損は、国民に強い衝撃を与え、火災や災害による文化財保護の危機を深く憂慮する世論が高まり、翌昭和25年に文化財保護の総括的な法律として文化財保護法が制定されました。

その後、昭和29年11月3日に法隆寺金堂の修理事業が完了し、翌年には法隆寺金堂の焼損した日であること、また、1・2月が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることを踏まえ、1月26日を「文化財防火デー」と定められました。

練馬区でも、区内の各消防署や、地域の防災組織による消防演習を、各神社・寺院で行っております。

どなたでも見学できますので、ぜひお越しください。

日時・場所

◆石神井消防署による演習

1月24日(金) 午前10時から
10時30分まで

◆練馬消防署による演習

1月27日(月) 午前10時から
10時30分まで

【お問合せ】 伝統文化係まで

南蔵院(中村1-15-34)



— 昨 年 の 様 子 —



東京消防庁マスコット「キュータ」

馬にちなんだ文化財

今年の干支は、午(馬)ということ、区内にみられる馬にちなんだ文化財を紹介します。

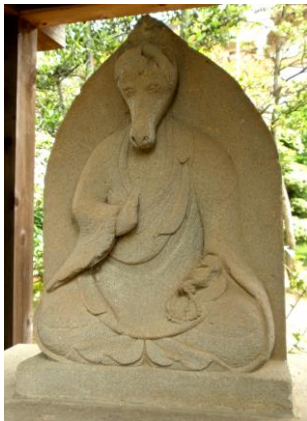
◇馬頭観音

区内には、馬頭観音の石造物が120基余り残っており、現在3基が区の登録有形民俗文化財になっています。

「僧形馬頭観音」(早宮2-26本寿院)
「力持ち惣兵衛の馬頭観音」
(大泉学園町2-27)

「三原台の馬頭観音」(三原台3-6)

馬頭観音は一般的には頭上に馬頭をいただいた観音です。俗に馬の守り神とされ、江戸時代の頃から、運送や農耕で働いた馬の供養や、さらに転じて交通安全の祈願のためなど、さまざまな意味を込めて、馬頭観音の石像・石塔が建てられました。



「僧形馬頭観音」



「三原台の馬頭観音」の石塔上部にある馬頭観音座像

◇ちがや馬飾り

登録無形民俗文化財「ちがや馬飾り」の保持者3名が認定されています。「ちがや馬飾り」は、ちがや(カヤの一種)で作る七夕馬のことです。毎年七夕になると、2本の竹飾りの間に荒縄を渡し、雌雄一対のちがや馬を向かい合せて吊るしました。かつては、区内各地の農家で広く行われてきた風俗慣習です。



ちがや馬飾り